

中国高校生友好交流大使 500 人訪日団第 2 陣
訪問日程 平成 27 年 11 月 8 日（日）～11 月 14 日（土）

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した中国高校生友好交流大使 500 人訪日団第 2 陣計 100 名が、11 月 8 日から 11 月 14 日までの 6 泊 7 日の日程で来日しました。（団長：任月忠（ニン・ゲツチュウ）山西省教育庁 副庁長）

本事業は 2015 年 5 月に二階俊博・自民党総務会長が率いた 3,000 人の「日中観光文化交流団」の訪中を契機として実施が決まり、本団は、第 1 陣から第 3 陣まで中国高校生 500 名を招聘する計画の第 2 陣として実施しました。

訪日団は、東京都、埼玉県を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、日本の高校生との交流、ホームステイ、訪日記念植樹、日本文化体験など幅広い活動を通じて、同世代や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

11 月 8 日（日）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

11 月 9 日（月）

日本科学未来館・浅草寺・東京タワー見学、歓迎会

11 月 10 日（火）

埼玉県へ移動

第 1・2 グループ：彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム見学

第 3 グループ：埼玉県環境科学国際センター見学

第 1 グループ：国際学院中学校高等学校訪問・交流

第 2 グループ：埼玉県立和光国際高等学校訪問・交流

第 3 グループ：埼玉県立不動岡高等学校訪問・交流

11 月 11 日（水）

日本文化体験（茶道、昔遊び・大道芸、折り紙）、鉄道博物館見学、ホームステイ

11 月 12 日（木）

ホームステイ、訪日記念植樹、長瀬ライン下り、秩父まつり会館見学、和風温泉旅館での日本文化体験

11 月 13 日（金）

東京都へ移動

第 1・2 グループ：小菅水再生センター視察

第 3 グループ：墨田清掃工場視察

共通：商業施設視察、歓送報告会

11 月 14 日（土）

羽田国際空港より帰国

3 写真

	
11月8日 オリエンテーション（東京都）	11月9日 日本科学未来館見学（東京都）
11月8日 説明会（東京都）	11月9日 参观日本科学未来馆（東京都）
	
11月9日 浅草寺見学（東京都）	11月9日 東京タワー見学（東京都）
11月9日 参观浅草寺（東京都）	11月9日 参观东京塔（東京都）
	
11月9日 歓迎会で挨拶する石兼公博 外務省アジア大洋州局長（東京都）	11月9日 歓迎会で上田清司埼玉県知事（右より5）他来賓と中国高校生が交流（東京都）
11月9日 在欢迎会上石兼公博外务省亚洲大洋州局长致辞（東京都）	11月9日 在欢迎会上田清司埼玉县知事（右5）等来宾与访日团交流（東京都）

	
11月10日 彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム見学（埼玉県）	11月10日 埼玉県環境科学国際センター見学（埼玉県）
11月10日 参观彩色王国 VISUAL PLAZA 影像博物馆（埼玉县）	11月10日 参观埼玉县环境科学国际中心（埼玉县）
	
11月10日 国際学院中学校高等学校訪問・交流（埼玉県）	11月10日 国際学院中学校高等学校訪問・交流（埼玉県）
11月10日 访问国际学院初级高级中学并进行交流（埼玉县）	11月10日 访问国际学院初级高级中学并进行交流（埼玉县）
	
11月10日 埼玉県立和光国際高等学校訪問・交流（埼玉県）	11月10日 埼玉県立和光国際高等学校訪問・交流（埼玉県）
11月10日 访问埼玉县立和光国际高级中学并进行交流（埼玉县）	11月10日 访问埼玉县立和光国际高级中学并进行交流（埼玉县）

	
11月10日 埼玉県立不動岡高等学校訪問・交流（埼玉県）	11月10日 埼玉県立不動岡高等学校訪問・交流（埼玉県）
11月10日 访问埼玉县立不动冈高级中学并进行交流（埼玉县）	11月10日 访问埼玉县立不动冈高级中学并进行交流（埼玉县）
	
11月11日 日本文化体験（茶道）（埼玉県）	11月11日 日本文化体験（昔遊び・大道芸）（埼玉県）
11月11日 体验日本文化（茶道）（埼玉县）	11月11日 体验日本文化（传统游戏、大道艺）（埼玉县）
	
11月11日 日本文化体験（折り紙）（埼玉県）	11月11日 鉄道博物館見学（埼玉県）
11月11日 体验日本文化（折纸）（埼玉县）	11月11日 参观铁道博物馆（埼玉县）

	
11月11日 ホームステイ（埼玉県）	11月12日 ホームステイ（埼玉県）
11月11日 家庭寄宿（埼玉县）	11月12日 家庭寄宿（埼玉县）
	
11月12日 訪日記念植樹（埼玉県）	11月12日 訪日記念植樹（埼玉県）
11月12日 访日纪念植树（埼玉县）	11月12日 访日纪念植树（埼玉县）
	
11月12日 長瀨ライン下り（埼玉県）	11月12日 秩父まつり会館見学（埼玉県）
11月12日 长瀨沿溪漂流（埼玉县）	11月12日 参观秩父祭祀会馆（埼玉县）

	
11月13日 小菅水再生センター視察(東京都)	11月13日 墨田清掃工場視察(東京都)
11月13日 考察小菅水再生中心(東京都)	11月13日 考察墨田清掃工場(東京都)
	
11月13日 歓送報告会 任月忠団長による訪日活動総括(東京都)	11月13日 歓送報告会で訪日成果を報告する団員(東京都)
11月13日 在欢送报告会上任月忠团长进行访日活动总结(東京都)	11月13日 在欢送报告会团员汇报访日成果(東京都)

4 参加者の感想(抜粋)

○ 今回の訪問で一番印象に残っているのは、埼玉県国際学院中学校高等学校を訪問したことだ。学生や先生が私たちを温かく迎え、パフォーマンスも披露してくれた。日本の学生と一緒に参加した英語の授業では、たくさんのことを学んだ。日本の学生は、とても親しみやすく面白かった。最初に私たちを見た時は少し堅くなっているようだったが、ユーモアたっぷりの言葉でその場の気まずい雰囲気を和らげた。お互い英語には少し苦労したが、相手の誠実さははっきりと感ずることができた。簡単な交流で、私たちの間にあったよそよそしさはすぐに消え、時間がとても短く感じ、あっという間に過ぎた。授業終了になってようやくこの授業の特別な意義を感じた。その後の交流会で、私たちはゲーム形式で、中日両国の言葉の違いを比べあった。ゲーム形式だと、リラックスして楽しく遊びながら学べ、覚えることができた。

帰国したら、周りの人たちに日本の進んだ科学技術と、茶道や折り紙等の日本の伝統文化を伝えようと思う。それから、日本人が親しみやすく、もてなし好きで、とても礼儀正しいということも。中日両国の友情がこれからもずっと続きますように。

○ 日本人の大药房で温かく明るい性格が、最も印象的だった。埼玉県立不動岡高校を訪問した時、会場に入ると、その場にいた学生全員が起立して、拍手で迎えてくれた。その拍手は終始変わらない大きさで、中国の高校生を目にした彼らの興奮や感激が伝わってきた。一人一人の顔に喜びの表情が浮かんでいて、私はすぐに彼らとの交流の輪に入ることができた。彼らの案内で、教室を見学したが、私の学校の教室と大体同じで、懐かしいような親近感を覚えた。次に、ホームステイでは、日本人の日常生活を身をもって体験することができた。私のホストファミリーのお父さんお母さんは、とても話好きで、一家全員英語ができたので、交流するのに問題はなかった。夜、私たちは一緒に夕食の買い物に出かけた。彼らは私を家族の一員として扱ってくれ、好きな食べ物は何かと尋ね、私に好きな物を選ばせてくれた。家に帰ってから皆で食卓を囲み、美味しい食事を味わった。中国を離れてから、初めて温かい気持ちになった。こうした交流活動が、最も意義があると感じた。自分が高校生の時に、このような素晴らしいひと時を過ごせたことを、とても幸せに思う。これは、単に私に対する試練であるだけではなく、中日の文化交流を強化し、友好交流協力を促すために、とても大切なことだと思う。友情を末永く続けていけるかどうかは、中日の国民同士が心を開いて友好交流を続け、友好事業の発展のために力を注いでいけるかどうかにかかっている。学校やホームステイでのお別れの時、私たちの姿が見えなくなるまで彼らは見送ってくれていた。私は心が温まり、その友情の深さに驚き、感動した。あれほど深い愛情で人に接し、あんな風に人を大切にできるだろうか。

帰国したら、クラスメートに訪日での体験や日本の文化を伝え、文化の多様性やお互いを鑑として学び合うことを知ってもらいたい。そして彼らにも、日本人の優れた所について学び、勤勉さや着実さ、温かさや大らかさを身に付けてほしい。

○ 活動に参加する前までは、日本は近代化を遂げた国で、日本人は近代的で生活のリズムが早いくらいにしか思っていなかった。でも、来日して、茶道を体験したり、和服を着たり、日本食を食べたりして、日本は文化もとても奥が深く、長い歴史があり、日本人も忙しい中で生活を楽しみ、感情豊かであることが分かった。

高校訪問では、授業中、学生は好きな時に自由に発言ができ、先生との距離がとても近く、授業が活気に溢れていることや、学校は設備が整い、制服と運動服とがはっきり区別されていることを知った。あと、中学生は、全員が iPad を使っていた。学校を訪問して、学校がコミュニケーション活動の場となっていること、日本は経済と文化が発展し、教育を重要視していることが分かった。

○ 来日して、初めに日本科学未来館、彩の国ビジュアルプラザ映像ミュージアム等の施設を訪問した。それぞれの施設には、たくさんの小中学生の姿があり、日本が基礎教育を重視していることがよく分かった。日本政府が子供たちのために思い、その将来の発展のために準備をしていることが見て取れ、これも、日本の科学技術が発展を続けている理由の一つだと思った。

それから、私たちは国際学院中学校高等学校を訪問した。学校の歓迎会は盛大というわけではなかったが、厳かな雰囲気満ちていて、この活動にきちんとした態度で臨まなければという気持ちにさせられた。互いに記念品を贈り、民族色豊かなパフォーマンスを披露し合った。どちらも力を尽くした素晴らしい内容だった。その後の授業体験での交流は決してスムーズではなかつ

たが、私たちは誠実な態度と丁寧な言葉で、生涯忘れられない大切な友情を築いた。

今回の訪日はとても楽しかった。活動を通じ日本人を十分に理解することができ、感心させられる所も多くあった。私も成長し続けられるよう頑張ろうと思った。

○ 日本人は伝統文化の継承と発展をととても重視し、民族の伝統と歴史遺産の保護に力を入れている。例えば、日本の街では、美しい和服を着た人々をたくさん見かけたし、伝統的な茶道や折り紙、太鼓を習っている人も大勢いた。伝統的な祝日が、四季を通して一年中ある。これら全てが、日本人の団結力の強さに繋がっていると思う。日本は科学技術が進歩し、“科学技術大国”となり、その結果強国となった。これは日本人が先を見すえているからだ。

自身の体験と感想を分かち合い、家族や友人に日本人の真面目さや責任感あふれる生活態度を伝えたいと思う。日本の美しい自然環境や風習、人情も紹介したい。クラスメートには日本の漫画を、女子の友人にはコスメを勧めたい。このような小さな一つ一つのことが、日本に対するイメージを具体的にさせ、中日両国民の友情が深まることになると思う。

○ 一番印象に残ったのは、ホームステイだ。お爺さんは、いち早く私たちを迎えに来てくれ、おばさん（お爺さんの息子さんのお嫁さんで中国人）が通訳をしてくれたので、私たちは、楽しくおしゃべりしながら富士見市の家に向かった。近所の氷川神社に出かけ、賽銭を投げてお祈りし、日本の伝統的な稲荷の祠を拝んだ。あと、私とお爺さんとおばさんは、“開”の字の形をした門の前で写真を撮った。夕食は、おばさんが私たちのためにたくさんの料理を用意してくれた。唐揚げに寿司、サラダ、スープ、それにお婆さんの弟さんが育てた野菜もあった。お腹いっぱいだったが、食後のデザートもたくさん食べてしまった。食事の後で、私たちは心を込めたプレゼントを交換した。お爺さんは、私たちの名前を入れた印鑑を準備してくれていた。私たちは、お婆さんの三人の娘さんたちとおしゃべりをしたが、彼女たちは少し中国語が話せ、とても友好的だった。二日目に、皆で一緒に庭になっているみかんを採った。別れの時、皆眼を赤くしていた。お爺さんが言った「もう家族だからね」という言葉は、今でも私の心に深く刻まれている。

帰国したら、自分が見た本当の日本の風習や人情を友人に話し、聞いたこと思ったことを彼らに伝えたいと思う。私の日本に対する理解は全てではないが、テレビから伝わる日本の情報ではなく、本当の日本を伝えたいと思う。チャンスがあればもう一度日本に来て、もっとたくさん日本の美味しい物を食べ、より多くの社会の様子や人々の姿を見たい。そしてこれからも、訪問先の高校で出会った人を含め、日本の友人たちと連絡を取り続けたい。中日友好は、一人一人が大切に代々伝えてこそ、強く発展し結果に結びつくと思う。

○ 参加する前までは、日本は先進国だから、主要な交通手段は車に違いないと思っていた。しかし実際には、列車や電車等の公共交通機関が主だった。

高校訪問では、学生が皆自由に行動し、関心の幅がとても広いと感じた。授業中は、笑い合いながら話し、先生もユーモアたっぷりだった。毎日放課後には、運動系、音楽系等さまざまなクラブ活動があり、毎日がとても充実していると感じた。

○ 最も印象深かったのは、日本の環境意識の高さだ。

東京でも埼玉でもその他の地域でも、一面に咲いた雛菊や緑地、生い茂った木々がとても印象的だった。日本の環境重視の姿勢は、中国人一人一人が謙虚に学ぶべきだ。日本科学未来館では、科学技術アニメゲームを体験し、物質の循環と資源の利用について深く学ぶことができた。小菅水再生センターでは、資料の説明文にあった油污れのついた皿の処理等を読み、自分の生活習慣に改善すべき点がまだたくさんあることに気づいた。ホストファミリーの家では、庭の高く伸びた木々や池で泳いでいる魚に「自然＝家」人と自然が調和する美しさを実感した。さらに、トイレの最新かつエコな設備や、ダイニングテーブルを常に清潔にしておく習慣には感心させられた。帰国後は、自分の生活習慣を改善し、自分と家族の環境意識を高め、地球という中日等各国共通の家を守るために貢献したい。

○ 今回の訪問を通じて、一番印象に残ったのは日本の文化だ。日本の文化は、中国と似ている所もあるが、完全に同じではない。中国を手本にしているが、新たに築き上げたもので、同じように魅力的で独特な文化である。こうした文化は、日本人の日常の習慣や礼儀、行動に表れている。華道や茶道、書道、畳等もそうだ。私たちは、茶道のお点前の中の、あの非常に複雑でありながらも優雅な手順に、日本文化の奥深さを感じた。こうした文化を通じて、日本人の性格の特徴や、物事の処理の仕方をより深く理解した。華道も同様に、日本人の美に対する追求であり、美の創作の境地である。総じて、日本の文化が私には印象的だった。

○ 学校訪問が一番印象的だった。パソコン室や、整然とした図書館、さまざまな球場や剣道場等、そして調理室に私たちは驚いた。日本の学校環境は素晴らしく、温かい雰囲気だった。そして、吹奏楽部のパフォーマンスには本当に驚いた。それは、素晴らしい演奏だった。さまざまな楽器が、彼らの熟練したテクニックで奏でられていた。私たちの学校では、こんな大規模な楽団が編成されたことはなく、学生たちの課外活動は十分ではない。そのせいもあって資質が十分に向上しないのだ。私たちは、もっと学生の資質の向上に努めるべきだと思った。

○ 今回一番印象深かったのは、ホームステイだ。私たちは、お母さんに温かく迎えられた。靴下に穴が開いてしまったと打ち明けると、嫌な顔一つせずに、車で店に連れて行ってくれた。布団の敷き方が分からなくて困っていると、笑顔で教えてくれた。電車に乗って日本人の生活を体験してみたいと話すと、混んでいるのに喜んで連れて行ってくれた。この家には可愛い子供が二人いて、人懐っこく抱き着いてきたり、私たちのために料理を運んでくれたりした。私は本物の日本料理を味わい、暖かい炬燵に入って楽しくおしゃべりをした。堅苦しさは全くなく、まるで自分の家にいるようで、私たちは自分の母親のことを思い出した。同時にお母さんは私のことを心配しているかな？と思った。別れる時、子供たちは私たちに抱き着いて泣いていたので、私はなだめなかったが、何と言ってもいいから分らず、ただ彼女を抱きしめながら頭を撫で、柔らかな頬の涙を拭った。私たちが深い友情で結ばれていると分かった。

帰国したら、クラスメートに日本の風習、特に日本人の一般的教養の高さについて話したい。本当に素晴らしいと思った。

年月が過ぎればこの出来事は昔の話になってしまうかもしれない。でも私たちの深い友情は永遠だと信じている。

○ 日本で、私たちはたくさんの日本文化に触れ、日本人と親しく交流し、友情を築いた。

日本の環境保護とゴミの回収処理が、私たちが最も学ぶべきところだ。日本では、皆ゴミを家に持ち帰るから、日本の道路はとても清潔だし、作業員の負担も大幅に減らすことができている。ゴミは、全て分別され、種類ごとに収集時間と場所が決められ、処分と再利用が、機械化された流れ作業によって行われている。これは、環境汚染を大幅に減らしていて、とても良い勉強になった。

他にも、日本には敬語や礼儀作法がとても多く、中国との違いを感じた。良い悪いを言っても仕方がないが、これが他の民族と異なる日本の特徴であり、民族ごとに異なる特徴があるからこそ、世界の文化が豊かになっていると思う。

日本人の集団意識についても、挙げないわけにはいかない。日本人は集団の調和を重視し、個人の突出は重んじない。これは、中国の儒家の文化と似ているところだ。

つまり、共に東アジアの国同士、中国と日本は互いに学び合うべき点がたくさんあり、国民同士の友情は最も大切だと思う。

○ 今回の訪日が、私にとっては初めての海外で、たくさんのことを感じた。まず、空港でのさまざまな手続きに始まり、日本滞在中に見聞きしたこと全てが、私の視野を広げ、国際化のレベルをアップさせてくれた。次に、今回の6泊7日の訪日で、日本の科学技術施設や、文化施設、商業施設等を見学し、日本の風習や人情、伝統文化、伝統的な食べ物を体験した。特に、日本人と深く友好的な交流を行ったことで、来日前に私が持っていた日本人に対する考え方が変わり、日本という国と日本人の新たなイメージ像ができ、日本に対する理解が深まったと思う。国際意識が高まり、他の地域の異なる文化風習を理解する術が身につき、日本人との間に友情も築けた。日本人も私と同じ様に、中日両国の友好の架け橋になり、歴史を鑑として両国の発展を促し、友情が末永く続いていくことを願っていると思う。

○ 活動に参加する前までは、日本に対して、科学技術が発達した、独特の文化を持つ、一般的教養が高い優秀な隣国という程度の知識しかなかった。

活動に参加してみて、より多くより細部まで日本の素晴らしさを知ることができた。人への細やかな心配り、個人の成長を重視していること、一人一人の環境保護意識の高さなど、中国とは異なる点や学ぶに値することがたくさん体験できた。

私は理系の学生なので、学校訪問では、日本の学校の素晴らしさに驚かされた。実験探求を重視していること、学生の科学技術理念の育成を重んじていること、クラブ活動が豊富なこと、全てが中国の教育体制にもっと取り入れる価値があると思った。そして、日本の学生の、親しみやすさや温かさ、誠実さは、まるで同じ国の人に出会ったかのように、彼らの相手に対する尊敬の気持ちが、中国の伝統でもある、もてなしの原則とほとんど変わらないことにも感動した。

○ 今回の訪問で、より深くより細かく日本の素晴らしさを知ることができた。

日本科学未来館や埼玉県環境科学国際センター、清掃工場等の先端の科学技術施設を見学し、日本の科学技術の発達に驚いただけではなく、日本が教育を重視していることにも深く感動した。

今回見学した施設には、多くの親たちが自分の子供を連れて見学に来ていた。こうした小さい時からの好奇心を育てる教育とその普及は、私たちがもっと努力して改善しなければならないことだ。また、これらの施設は、細部の造りも素晴らしかった。盲人用ブロックや障害者へのケア等、人への思いやりに対する努力は、中国では取り組みを進めてまだ間がないからだと思うが、中国の上を行っていると感じた。私は、中日両国の政府と国民は互いに学び合い、より良い発展をしていけると信じている。秩父まつり会館等文化施設の見学では、日本が祖先から受け継いだ文化を大切に守り、文化に誇りを持ち、伝統文化を重視していることに感動した。中国の文化も深く広く五千年余りの発展の歴史があるが、日本に学び、自分たちの文化をより重視し保護に努めるべきだと思った。

そして、最も印象的だったのは、ホームステイ体験だ。日本の技術が家庭にもたらしめている便利さを、身を持って体験できただけでなく、日本人の一般的教養の高さや、もてなし好きなところ、隣近所の人々との付き合いや、環境保護意識の高さ、とりわけごみ分別の細かさ等、全てが学ぶに値すると思った。彼らの温かいもてなしで、私は身内に会った時のような気持ちになり、自分の国にいるかのような親しみを感じた。

私はクラスメートに、日本の細部に対する真面目な取り組みを伝えたい。また日本に来て学び、交流したい。

○ 今回の訪日で、埼玉県立不動岡高校への訪問と、ホームステイは一生忘れられない。

不動岡高校で、まず違いを感じたのは、日本の授業スタイルが西洋の方式に近いということだ。不動岡高校の教室に座り、私は「何とも言えない気持ち」になった。日本の高校生との交流では、私はできる限り自分の考えを伝えようとした。同時に、彼らがとても誠実に理解しようと努めてくれているのも分かった。私の力不足を許してくれた彼らの寛容さに感謝した。パフォーマンス披露では、日本側の心のこもった準備に深く感動した。特に、チアリーディングチームのメンバーがポンポンで「CHINA」の文字を作ってくれたことに、とても感動し感謝した。校内見学では、図書館や天文台、教室やクラブ等、どれも素晴らしく、整ったインフラ設備に驚いた。

ホームステイでは、5人家族の家へ行った。おじさんは看護学校に勤務していて、私たちを彼の職場である学校にも連れて行ってくれた。看護学校の学生たちはとても親切で、彼らのような、人のために奉仕する人に、敬服させられた。家でおじさんの親戚の人も交えて将棋をしたが、その人は将棋選手権大会のチャンピオンで、私は完敗だった。夕食では、ついに日本本場のおでんを味わうことができた。その後、プレゼント交換をして、お風呂にも入らせてもらった。お風呂はとても気持ち良かった。ホストファミリーの心のこもったもてなしにとても感謝している。これから頑張って日本語を勉強し、チャンスがあれば必ずまたホストファミリーに会いに来たい。

帰国したら、友人やクラスメートに日本人の気質、日本の科学技術や教育面について、中国との違いを伝えたい。そして、中国人として、私はその素晴らしさを学び、中日友好と中国の発展のためにできる貢献をしたい。